



KONICA MINOLTA

HONDA



Racing Specialities



Driver Stand 2りんかん



UNDER ARMOUR
PERFORMANCE APPAREL



The Nutrition Behind Performance™



PINS
FACTORY®

GRAND PRIX OF TURKEY

2007年 MotoGP 世界選手権シリーズ 第3戦

イスタンブール(トルコ)[4月22日(日) 決勝 天気 晴れ]

#56 中野真矢 [予選12位 決勝13位 総合ランキング12位]

レースウィークを通じて、タイムが上がらずに苦しい状態だった。

決勝日でも後方でレースをすることになり、フラストレーションの堪る展開だった。

それでも、悪いなりに決勝でのセットアップはまずまずで、ベストラップを終盤で記録できたのが唯一の収穫だった。

こういうレースもあると気持ちを切り替え、ポイントをとることを考えて、レースに向かっていたので、13位でポイントが取れた事は良かった。

今の状態が、自分の走りのイメージとかなりかけ離れてしまっていて、思うようにマシンに乗れないのが残念だが、まだまだ3戦終わったばかりなので、これからマシンを良くしていきたい。

こういうレースもあると気持ちを切り替え、ポイントをとることを考えて、レースに向かっていたので、13位でポイントが取れた事は良かった。



ジャンルカ・モンティロン (コニカミノルタホンダチーム 監督)



今回、我々はいくつかの問題を抱えており、真矢はリスクを承知でコーナーを攻めなければならないような状態だった。

10位だったバレンティーノ・ロッシの結果からもわかるように、同じタイヤを履いたライダーが同じような結果

に終わっている。

もしかしたら、タイヤ自体は良いのだろうけど、今回のような気温差やコンディションの変化が激しかった状況では、うまく機能しなかったのかもしれない。

ここのトルコは、800ccになり、タイヤの本数制限が実施されてから、誰もテストをしていない状況での初めてのレースであったし、こういうことが起こりうることも分かっていた。

我々は次の中国 GP に向けて、真矢のコーナリングスピードを上げられるよう、HRC、ミシュランと共に取り組んでいかなければならない。

OfficeFourEight

© shinya56.com